

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 改訂第3版	共著	2019年12月	南江堂	著書全体の概要:運動療法学の治療対象となる運動器の障害像を概説し、障害別の講義入る前段階で運動療法の全体の流れを学べる教科書である。 (総ページ数: 392頁) (著書全体の著者名 細田多穂、植松光俊、明日徹、井ノ上修一、大川裕行、金子秀雄、谷埜予士次、山崎貴博、岡山裕美、大工谷新一、山本悟、相馬俊雄、永崎孝之、岡田裕隆、小野武也、島谷康司、阪本良太、境隆弘、高橋健太郎、熊野大輔、高橋尚明、吉本好延、大城昌平、千鳥司浩、青木一治、加藤文之、河瀬直也、竹林秀晃、久保田章仁、加藤宗規、指宿立) 担当部分の概要:運動の全身的影響の運動療法として全身調整訓練に関する姿勢変化と生体反応の実習の方法を紹介する (pp78~84、単著)
2 (学術論文) 中年者のフレイルに関する因子 -横断的研究- 《筆頭論文》	共著	2022年3月	理学療法の臨床と研究	著書全体の概要:本研究では中年者のフレイルは、意識的に運動していないことが強く関連し、次いで睡眠の質の低下が関連する要因であった。 (総ページ数:8頁) (著書全体の著者名:山崎 貴博、梅原 拓也、松浦 晃宏、山内 加奈子、木藤 伸宏、山岡 薫、田中 秀樹)
3 (学術論文) Interactive effects of exercise and sleep on frailty severity in community-dwelling older adults: a cross-sectional study	共著	2022年1月	Journal of Rural Medicine	著書全体の概要:本研究では、地域在住高齢者において、運動と睡眠の相互作用が虚弱の重症度に及ぼす影響を検討した結果、地域在住高齢者のフレイル進行の予防には、良い運動と良い睡眠の組み合わせが必要であることを示唆した (総ページ数:8頁) (著書全体の著者名: Takuya Umehara, Akinori Kaneguchi, Takahiro Yamasaki, Akihiro Matsuura, Nobuhiro Kito, Hideki Tanaka, Kaoru Yamaoka)
4 (学術論文) 住民アンケート調査による地域高齢者の認知的フレイルに影響する要因の検討 -横断研究-	共著	2021年4月	臨床工学雑誌	著書全体の概要:地域高齢者の認知的フレイルと身体的フレイルに影響する要因を明らかにし、認知的フレイルに特徴的な要因について検討した結果、地域高齢者の認知的フレイルを予防・改善するためには、運動の習慣化とともに地域活動へ参加を促すための支援が必要である可能性がある(総ページ数:7頁) (著書全体の著者名: 松浦晃宏、梅原拓也、山崎貴博、徳森公彦、木藤伸宏、田中秀樹、山内加奈子、山岡薫)